

平成29年度 住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ実施報告

八戸市高齢福祉課



八戸市
市制施行
88周年

目的（年度当初）

生活支援体制整備事業の目的や地域の実情を踏まえ、ワークショップの目的を以下のように設定した。

- 住民参加で地域の課題について解決策の検討等を行う。
- ワークショップをきっかけに地域の活動に新たな人材を取り込む。

企画の見直し（年度途中）

ワークショップ参加者及び協議会の意見をもとに、企画を修正した。

意見等	対応
一人暮らし高齢者の生の意見を反映させるべき。	一人暮らし高齢者と65歳以上のみの世帯の方に参加を呼びかける。
テーマを絞って欲しい。具体的な話題の方が話しやすい。	当日会場で参加者から具体的ニーズを挙げてもらうと同時に、これまでの調査等から判明したニーズを提示する。
企画の趣旨が十分に伝わっていない可能性がある。	課長挨拶、行政説明などで繰り返し伝える。
人材の確保や受け入れに手間がかかるため、そう簡単な話ではない。	人材確保を強調しすぎず、まずは自由に参加し自由に発言できる雰囲気醸成することを優先する。

目的（年度最終）

第1回、第2回を経て第3回ワークショップでは以下の目的を掲げた。

- 住民参加で地域の課題について解決策の検討等を行う。
- 地域包括ケアシステムの周知を図る。
- ワークショップを地域活動活性化のきっかけにする。

企画

各回の企画内容は少しずつ変えて、より良い企画を模索した。

第1回	第2回	第3回
平成28年度調査で浮かび上がった課題の解決策を検討。	各グループに、ひとり暮らし又は高齢者のみ世帯の方を配置し、実際の困りごとをグループメンバーがインタビューしたうえで、解決策を検討。	第1回、第2回のワークショップで挙げた課題を、各グループに割り振った上で解決策を検討。

実績（参加者数）

	第1回	第2回	第3回
日時	8月23日	12月9日	2月23日
対象	白銀、小中野	白山台、長者 吹上	鮫、南浜 白銀南
会場	はっち	ハピ ねやくら	瑞光園
参加者	37名	48名	29名

※参加者は、地域住民（町内会・地区社協・民児協など）、八戸学院大学・短期大学部の学生、地域の福祉施設職員（居宅・在介など）。

※第2回では、ひとり暮らし又は高齢者のみの世帯の方に参加が必ず各グループに入るような配慮を行った。

実績（参加者詳細）

	第1回	第2回	第3回
人数	白銀14名 小中野15名	白山台20名 長者5名 吹上5名	鮫9名 南浜8名 白銀南7名 その他5名
年代別	30代2名 40代2名 50代5名 60代11名 70代7名 80代1名	59歳以下5名 60代8名 70代14名 80代3名	30代1名 40代2名 50代4名 60代8名 70代14名

※年齢が不明の参加者もいるため、参加者総数と一致しない。

実績（学生）

	第1回	第2回	第3回
人数	8名	12名	10名

- 当初は八戸学院大学の小柳ゼミナール所属学生のみでの参加であったが、第2回は同大学短期大学部の三岳講師門下の学生も参加している。
- 学校の長期休暇中に開催したワークショップでも、参加は良好であった。

プログラム

プログラムの枠組みは年間を通して大きく変化していない。

- 市の人口動態と高齢福祉施策の説明
- ワークショップ及び地域包括ケアの説明
- グループワーク（アイスブレイク含む）
- 発表

参加者からの評価（住民）

ワークショップに参加して良かったかどうか

	第1回	第2回	第3回	合計
参加してよかった	23名 (82.1%)	26名 (89.7%)	28名 (96.6%)	77名 (89.5%)
なんともいえない	3名 (10.7%)	3名 (10.3%)	1名 (3.4%)	7名 (8.1%)
参加する必要なし	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
無回答	2名 (7.1%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (2.3%)
合計	28名	29名	29名	86名

参加者からの評価（住民）

ワークショップを継続すべきか

	第1回	第2回	第3回	合計
継続すべき	18名 (64.2%)	22名 (75.9%)	18名 (62.1%)	58名 (67.4%)
なんともいえない	7名 (25.0%)	4名 (13.8%)	3名 (25.0%)	14名 (16.2%)
継続の必要なし	2名 (7.1%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	2名 (2.3%)
無回答	1名 (3.5%)	3名 (10.3%)	8名 (27.6%)	12名 (13.9%)
合計	28名	29名	29名	86名

参加者からの評価（住民）

自由記載欄から意見を抜粋

- 話し合うという行為そのものに価値があるし、継続すれば次の展開が出てくると思う
- 情報交換の場となりうる企画である
- 皆が一度は参加すべき
- 次の世代を育成することに繋がる
- 学生に希望を感じた

参加者からの評価（学生）

ワークショップに参加して良かったかどうか

	第1回	第2回	第3回	合計
参加してよかった	6名 (85.7%)	9名 (100%)	6名 (100%)	21名 (95.4%)
なんともいえない	1名 (14.2%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (4.5%)
参加する必要なし	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
無回答	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
合計	7名	9名	6名	22名

参加者からの評価（学生）

ワークショップを継続すべきか

	第1回	第2回	第3回	合計
継続すべき	6名 (85.7%)	9名 (100%)	6名 (100%)	21名 (95.4%)
なんともいえない	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
継続の必要なし	1名 (14.2%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	1名 (4.5%)
無回答	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
合計	7名	9名	6名	22名

参加者からの評価（学生）

自由記載欄から意見を抜粋

- 住民からの具体的な話は学びにつながる
- 回を重ねるごとにアイデアが増えていった
- ワークショップの場であれば少数意見も大事にすることができる
- 高齢者の社会参加や世代間交流にもつながる企画ではないか

総評

- 参加の是非
住民、学生ともに全体の85%以上が「参加してよかった」と評価。
- 継続の要否
住民の67%、学生の95%が「継続すべき」と評価。

参加者からの評価は概ね良好。来年度の展開については審議案件のなかで検討をお願いしたい。